

京田辺市文化振興シンポジウムの概要

市民のみなさんに京田辺市文化振興計画の策定経過（中間報告）をお知らせするとともに、文化振興に向けた気運を高めるために、京田辺市文化振興シンポジウムを開催しました。

日時	平成 27 年 1 月 25 日（日） 午後 1 時～午後 3 時 30 分
場所	京田辺市立中央公民館大ホール
内容	<ul style="list-style-type: none">・ 基調講演 真山達志さん（同志社大学副学長、文化振興懇話会会長）・ パネルディスカッション 【パネリスト】 石井明三 京田辺市長 山田晏子さん（京田辺音楽家協会会長、文化振興懇話会副会長） 藤本玲舟さん（京田辺芸術家協会会長、文化振興懇話会委員） 長田吉弘さん（同志社大学学生、文化振興懇話会委員） 【コーディネーター】 真山達志さん・ フラダンス ハーラウ・フラ・オ・カプアモハラ・ コンサート 桃園ジュニアバンド
参加者数	参加者数 市民約 250 人

【シンポジウム風景】



●真山会長の基調講演の主な内容（テーマ：文化振興と市民・地域・行政）

- ・文化についての関わり方には、「観る」「する」「支える」があり、色々な関わり方がある。「観る」「する」は市民の権利。
- ・文化活動をやりたいときにできる環境をつくっていくことが、文化振興を行っていく上での重要な目的。文化振興を議論する時に重要なのは「支える」。「支える」ときには、市民、地域、行政のそれぞれの役割を考えていくことが必要。
- ・「支える」ことの意味には、「過去のもを守り継承する」「今あるものを維持・発展する」「新しいものを創造する」がある。
- ・支える対象には「人（ヒト）」「物（モノ）」「金（カネ）」「情報」などがある。今、大事なものは情報という側面であり、活動を行うときに、情報をいかに広く伝えられるか、厳しい状況を知ってもらって支援を得るなど、情報が伝わり、理解してもらえるかが、重要となっている。
- ・「支える」方法として、「観る」ことによって支える」「する」ことによって支える」「労力で支える」「金銭的に支える」「場所、機会を提供することで支える」「人材育成・後継者育成で支える」「情報で支える」などがあり、自分にできることを考えてみると、色々な方法で文化に関わることができるのではないか。
- ・これからの文化振興で留意してもらいたいのは、「地域の全ての主体が文化に関わっているという認識」「特別な努力、出費をしなくても文化振興に寄与できる」「文化には一定のお金がかかることを認識」「行政(自治体)依存での文化振興は限界」「市民や様々な民間組織、団体が出来ることをやる」「一方で行政の役割がなくなったわけではないことを認識する」などの点。
- ・行政の役割には、「文化施設の設置・運営」「市民の文化活動への物心両面の支援」「情報収集、情報発信での支援」などがあるが、市民が自ら文化に関わっていかないといけない。それを行政が側面から支えていく。市民に必要としている情報を提供することが行政の役割として大きなものとなっていると考える。
- ・文化の望ましい姿とは、無理をせず、自分のできること、立場によって文化に携わっていくことのできる社会が出来れば一番健全。
- ・一方、行政は財政規模などを踏まえて、期待されている役割をしっかりと果たしていく。文化から逃げないことが必要。このような関係を築いていければ、京田辺市の文化振興は非常に底力のある、発展していくものにつながっていくのではないか。

●パネルディスカッションの主な内容（テーマ：「これからの文化振興を考える」）

○文化振興計画策定の背景等について

【石井市長】

- ・文化は京田辺のまちづくりを行っていくために重要なもの。文化振興を計画的に進めていかなければ、基盤ができないと考えた。
- ・文化には様々な役割がある。心の豊かさのあるまちをつくっていくために、文化は欠かせないと感じている。
- ・京田辺市の文化や芸術を未来に引き継いでいくためにも、今から文化振興を行っていく必要がある。
- ・京田辺市には古くからの歴史、文化がある。また新しい文化を発信するという視点からは、学研都市を担っている街でもあるので、今後も京田辺らしい文化を創造していくためにも、計画策定をしていくこととした。

○中間報告の内容について

【石井市長】文化の担い手は市民一人一人。そこをしっかりと踏まえた上で、積極的、自主的に活動ができる環境をつくっていくことが、行政の役割である。気軽に文化に触れることができるためにも、多様な文化事業を展開していきたい。子どもたちに文化芸術に触れる事が出来る環境をつくっていく。小・中学校などの教育での体験機会を設けて、子どもたちの発表する機会を増やしていきたい。

【山田副会長】子どもたちに対し、昔の素晴らしい音楽や歌を継承することも踏まえて、日本や世界の名曲を鑑賞する機会を設けて、子どもたちの豊かな感性を育てていくことが文化発展には大事だと思っている。

【藤本委員】子どもの頃から、芸術の大切さ、目を肥やしていくことが人材育成につながっていくが、発表する場が京田辺市には少ないと感じている。また、指導者も大切である。芸術をもっと見せることのできる場所が必要だと考えている。

【長田委員】子どもの可能性について、市がどのようなことを行っていくべきか。子どもの可能性を伸ばしていくことは重要であり、子どもの可能性は無限大であるので、環境が整っていれば、文化芸術を発展させていくことはできると思っている。文化に興味を持つためには触れ合う機会が大切。文化活動に参加できる機会を設けていく、PRをしていくことが市の役目。ただやみくもにPRするのではなく、子どもたちのニーズを把握していくことが必要である。

- 【石井市長】市民や団体への支援については、それぞれの個性的な活動、文化イベントへの支援を行っていくとともに、文化ネットワークをつくっていく必要がある。文化団体と大学との交流、連携についても市が手助けをしていきたいと思っている。また、中央公民館、住民センターについては、使いやすいよう利便性を向上させて、活動場所や発表場所の確保に努めていきたい。
- 【長田委員】文化団体と大学との連携が必要。京田辺市には多くの文化団体があり、大学には多くのサークルがある。連携して活動することによって、より充実したものになる。共同作業を行う際、行政の役割は大きい。団体をつなぐ懸け橋として、重要だと思っている。
- 【山田副会長】練習場所などを確保するのが大変。市からは使用料や市外の施設を利用する時の補助などをいただいている。
- 【藤本委員】コミュニティホールは、少し使い勝手が悪い所がある。中央公民館で練習や発表をする時、抽選で活動場所を確保している。市の行事も多く入っているため、総合的に使える複合施設を望む。
- 箱ができて、従事する人、光熱費など多額の費用が必要である。展示をしながら、文化を見せる事ができる、多目的な施設が必要だと思う。施設は今すぐにはできないので、文化施設利用助成金などをもう少し充実していただければと思う。
- 【山田副会長】将来の人口を見据えて、交通アクセスのいい場所で大・中ホールを兼ね備えた、また、市民がくつろげる喫茶やギャラリーがあり、市民が幅広く利用できる施設が欲しいと願っている。
- 【長田委員】欲しいからつくるだけではお金も掛かるし、運営費も掛かり負の遺産になる可能性もあるので、慎重に考えることが必要。しかし、施設をつくることは先行投資であり、未来への投資である。子どもも使うので、将来的に文化の街につながっていくと思う。
- 【石井市長】施設を何のために建てるのか。市民が気軽に文化に触れる場所の提供という意味で、必要性も感じている。また、文化ネットワークをつくるためには中核施設が必要だと思っている。文化振興計画の中で十分議論をしていただきたい。文化は、品格のあるまちになるために必要なもの。
- 【真山会長】文化情報の発信に関して大切なのは、どの様な内容を発信するのか。コンテンツが大切。文化活動の充実や活性化があつてこそ情報の価値がある。手段とコンテンツを考えていくことが大切だ。